

笑ってごらん

第 535 号 H. 27. 12. 9 発行

～今日のことば～

あなたを愛している人達は、あなたが少々
かっこ悪くても全く気にしない。

(ムーミン)



◇◆2日、鹿児島県育英財団の事務局長様が来校された。用件は奨学生指導についてである。本校には同財団の奨学生がたくさんいる。育英奨学金は返還する義務がある。本校を卒業した半年後から返還が始まる。しかし、近年、返還が滞るケースが増えている。その際は、同財団からの要請を受け、学校から返還請求をする。それでも返還の動きがない場合は、近年、財団は訴訟の手続きを踏む。そして、給料差し押さえ等の措置が執られることになる。本校には数々の奨学金制度があるが、基本的に「借り受けた金銭は必ず返す」ことを忘れないでいて欲しい。奨学金によって一時的に自分の生活が楽になる恩恵は受けているのだが、その後の大事な『義務』を果たせないのは大問題である。現在本校に在籍している皆さんが今後滞納者リストに加わることの無いことを望む。育英奨学金以外の奨学金を受けている皆さんも、今一度、奨学金規約を見直し、貸与金額や返還方法・その他について確認してみることを願います。 ◇◆6日(日)、金峰文化センターへ加世田しらうめ幼稚園のおゆうぎ会を見に行った。歌・ダンス・オペレッタ・劇など多彩な演目があり、「練習が大変だっただろうな・・・」と感じた。また、子供たちが着ている衣装も、きらびやかなものであり、その準備にかけた多大な労力も推察された。主役である子供たちは、いつもの幼稚園内とは異なり、大きな舞台上でダンスや劇に臨むため、大きな緊張に包まれているのがよくわかった。最初からガチガチに固まってしまって全く動けずに終わる子もいれば、逆に、たくさんの人たちが見ているのが嬉しくて、必要以上に舞台上を走り回る子もいる。中には、決められた動きをせずに、先生から抱きかかえられ定位置に連れ戻される子もいた(その後、手足をバタバタさせて先生を困らせていた)。私たちは見るだけだから良いのだが



(また高い完成度も求めていない)、指導する園の先生方は本当に大変だ。ただ、今思うのは、それぞれの園児に、今回のおゆうぎ会が「楽しかった」思い出として刻まれてくれたらいいな、ということだけである。

～・・・～

感謝道

◇◆人生の味。事業や仕事を成功させようとするれば、自分の思い通りには行かない。それは当然のこと。田畑に植えた苗や種がすぐに育つわけがない。収穫するまで努力と忍耐を要する。事前や途中で「そんなに甘くはないぞ」と云われることが多い。確かに時間と力を要するが、「世の中、そんなに甘くはない」を聞いて落胆することはない。

なぜなら、「世の中、そんなに辛くはない」からである。人間、陰陽の世界で生きている。「甘さ半分、辛さ半分」何事も半々である。落胆の気持ちを回復する妙言は、「人生、甘くはない。されど辛くもない」・・・これをつぶやき、心の病である「失意」に罹らないこと。(心学ブログより転載) ◆この言葉は決して「楽観のススメ」ではないと思う。まま自分勝手に、「結果が自分の思い通りにならないはずはない」と思い込んで動き出すケースがある。傍から見ている者からすれば、「その根拠のない自信はどこから来るのか?」とも思うが、リスクに対する心構えが無いために、事前の思いとは裏腹の結果が出た時、結局、対処方法がわからず途方に暮れてしまう。その時にうろたえ始めてももう遅い。だからこそ、事前にうまく行かなかった時の対策はしっかり準備しておく必要がある。この言葉の本意は「やるべきことを確実に行った上で、必要以上に悩んではいけない」ということに他ならない。成功に導く努力を怠らないようにしよう。